

2階建て庁舎はいつから？

役場庁舎の変遷

明治39年10月に大口村が誕生して以来、役場庁舎は少なくとも木造平屋建て、2階建て、現在の鉄筋コンクリート一部4階建てと変遷してきます。

現在の役場庁舎は、町制施行10周年、昭和47年11月に竣工しました。しかし、その前の2階建て庁舎が、いつ建てられたのかはわかっていません。



▲丹羽高等女学校
写真提供 尾北高等学校



▲校舎解体（昭和32年）
写真提供 尾北高等学校



▲二階建ての役場庁舎

町史編さん講座

9月の講座は、前半に「戦後の暮らし」についてお話しします。新しい町史に記録として残していく内容となりますので、多くの方にご意見をいただく場にしたいと考えています。

後半の「日記を読み解く⑥」では、大口に住む男性の残した日記のうち、昭和20年前後の一部分を受講生の皆さんと一緒に読み解いていきます。歴史や町史作りに興味のある方はぜひお越しください。

日時 9月21日(土) 午前10時から正午

場所 中央公民館 視聴覚室

定員 60名程度

講師 愛知学院大学 文学部教授 後藤致人さん

※事前申し込み、受講料は不要です。

問合せ先 町史編さん室 ☎ 95-3464

そこで、途中経過ですが、次の手順で調べてみました。

①丹羽高等女学校（現在の江南市立尾北高等学校）の校舎を移築したという伝承がある。

②昭和34年に大口村役場に入庁した職員OBの方の話。

「入庁時の庁舎は2階建てで窓ガラスに尾北高校の校章があった。同校卒業生なので、この建物も職員室のあった校舎だとすぐに気が付いた」

③昭和31年刊行の『50年の歩み〜丹羽郡大口村〜』に、平屋の庁舎の写真が掲載されている。

④尾北高等学校を訪問。「昭和32年に校舎の改築」という記録とともに「昭和32年 工事写真」が残っており、丁寧な解体作業を思わせる写真と7月には解体工事が終わっている様子が見えた。

⑤昭和32年度大口村当初予算書に「尾北高校増築負担金 20万円」という記述を発見した。

今後は、昭和32年から33年に時期を絞って庁舎改築に関する記述を見つけ出し、さらなる情報収集で建設年を確定できたらと考えています。皆さんの情報をお待ちしています。

大口俳句会

根くらべ鳥と戦ひ西瓜取る

渡辺すみ子

つかの間の老いの残り日夏の雨

前田とし子

皮一枚めくられてゆく早桃かな

安藤 亮子

打ち水は靴脱ぎ石を青く濃く

木村千代子

わが老後団扇の風と坐りけり

保浦佐代子

風涼し水の音聞く山の家

土川喜一郎

芙蓉句会

風立ちて帆船の如く蓮巻葉

桑原 聡子

河骨の茎と見紛ふ雨蛙

田中寿美子

蛍乱舞こつちの水は甘きかな

大森恵美子

杉落葉ちりぢり燃えて飯支度

平本のり子

胸に抱きチェロの響きや青しくれ

土川 照恵

大口川柳クラブ

上寿まで生きるつもりでする昼寝

吉田 雄亮

物忘れ挨拶もなくやってくる

高橋あや子

留守宅に十指を超える花が咲き

安藤 久子

たっぷりの元気をくれる孫の笑み

日比野文子

髪型を夏バージョンへ変えた妻

天野 信和